

**個別事業(取組)評価**

事業No.	52	施策の柱への位置付け	柱⑩ 高校教育の推進	
事業名称	高等学校学力向上対策事業		担当課	高等学校課
			当初予算額(千円)	33,795
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	30,131

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 県立高校から国公立大学への進学者は、増加しているが、全国との比較では十分ではない。 ◆ 基礎学力の定着が十分ではない。 ※ 学習支援テスト(高校1年生対象 11月実施)	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 進路状況調査を実施し、進学や就職状況を把握している。 ◆ 基礎学力の定着状況の把握については、中学校における学力学習状況調査の結果及び高等学校入学者選抜の学力検査の結果も活用している。
		<b>【要因】</b> ◆ 生徒の学習習慣の定着が十分でない。 ◆ 生徒の進路意識の啓発が十分でない。 ◆ 大学入試に対応できる学力を向上させるための指導力が十分でない教員がいる。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 学習支援テストと併せて実施している進路や学習についてのアンケート結果の分析による。
②	目標(Outcome)	◆ 生徒一人ひとりの進路希望を実現するために、次の三つの目標を設定する。 ① 生徒の進学意識を向上させ、地元大学を含め、国公立大学進学者を増加させる。(平成21年度:487名→平成20年度の525名を超える) ② 1年生11月での平均家庭学習時間を増加させる。(平成21年:36分→全国平均63分) ③ 学力把握調査で、義務教育段階の学力が身に付いていないと判定された生徒の割合を減少させる。(平成21年:21.6%→14.4%未満) ④ 中途退学者を減少させる。(高知県の高校の中途退学率を全国の中途退学率1.7%に近づける。平成21年度:1.8%)	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ②については、今後目標値を設定するとともに、学習の実態を把握するための方法を検討する。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 国公立大学進学者数は552名(確定は5月)の見込みであり、目標値を大きく超えることができた。難関国立大学への合格者も増加している。 ② 1年生11月での平均家庭学習時間は37分で昨年度より1分増加した。学習時間は年々増加しているが、全国平均の63分と比較すると十分ではない。 ③ 学力把握調査で、義務教育段階の学力が身に付いていないと断定された生徒の割合は4月当初は18.3%であったが、11月の調査では13.5%と減少し、目標を達成することができた。基礎学力が身に付くことで、学校生活への意欲が高まり、中途退学者の減少につながるものと考えられる。 ④ 平成22年度の高知県の中途退学率は調査中であるが、公立高校の中途退学率は、1.8%(高等学校課独自調査)であり、昨年度の2.0%から0.2ポイント減少した。中途退学した理由としては「高校生活を送る意欲がない」や「人間関係がうまくいかない」などが多く、基礎学力の定着や人間関係づくりの取組が有効であると考えられる。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 進路状況調査 ◆ 学習状況アンケート ◆ 学力把握調査	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 基礎学力の向上 ・ つなぎ教材、基礎学力補力教材(延べ31校)、学力向上サポート員(延べ学校数14校、サポート員数23名) ② 力のある学校づくり ・ 学力定着把握調査(13校で1回目を実施)、全体研修会(5/11)28名参加、第1回研究協議会(7/7)29名参加 ・ 学びの学習合宿(総合学科2校延べ277名参加、県立中学校3校延べ261名参加) ③ 教員の資質向上 ・ 校内研修の充実(外部講師招聘11校17講座を開講) ・ 学力向上対策の研究(先進校等視察7校で23校を訪問) ・ 普通教科の教科別研究協議会(第1回～第7回研究協議会6/3～3/5)延べ223名参加) ④ 進路実現のための学力の向上 ・ 進路実現のための学力向上・意識啓発(大学キャンパス訪問)高知工科大学、高知女子大学、高知大学、東京大学、岡山大学、広島大学、京都大学、大阪大学延べ621名参加 ・ 進学手引き書の作成(26校が作成)
③	実施内容(Input・Output)	① 基礎学力の向上 つなぎ教材・基礎学力補助教材の研究・作成、学力向上サポート員配置 ② 力ある学校づくり 学力定着把握調査の実施(13校) ※ 学力定着把握調査の結果に基づいて教科指導の研究を行い、その成果を共有し、協議するフロンティアハイスクールサポート事業を実施。 学びの合宿の実施(5校) ③ 教員の資質向上 校内研修の充実、学力向上対策の研究、普通教科の教科別研究協議会の実施 ④ 進路実現のための学力の向上 学力向上意識啓発、進路手引き書の作成、進学入試問題集・進路情報誌の充実	【今後の方向】 ◆ 大学進学については、本県としては過去最高の実績となるが、全国と比較すると十分ではない。理工系、医療系などの進学分野の検証をし、生徒の大学進学への意識付け、教員の進学のための教科指導力の向上、学校としての進路指導体制の改善などを推進することが必要である。 ◆ 基礎学力の定着は、就職支援や中退防止の基盤となるものである。小規模校が多いことから学力向上サポート員の支援やフロンティアハイスクールサポートによる支援は今後も必要である。指定校の取組に留まらないよう、県立高校全体への普及を図る必要がある。 ◆ 高校の学力対策は一定の成果を上げているが、全国との比較では十分とは言えない。このことから、これまでの学力向上対策事業の検証を進め事業の見直しを行うとともに、継続して学力向上対策に関する支援を行う必要がある。

総合評価と今後の方向	目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【総合評価】 ◆ 大学進学については、センター受験者数(1,341名、過去最高)が増加し、国公立大学進学者数では、昨年度と比較すると県内大学の推薦Ⅰで合格者が29名減という状況の中、64名の増と大きな伸びが見られた。 ◆ 基礎学力の定着については平均家庭学習時間は少しづつではあるが増加しており、また、フロンティアハイスクールサポートによる成果から、学校全体として教科指導に取り組むことが学力定着が十分でない生徒への指導に効果があることを再確認した。
		【今後の方向】 ◆ 大学進学については、本県としては過去最高の実績となるが、全国と比較すると十分ではない。理工系、医療系などの進学分野の検証をし、生徒の大学進学への意識付け、教員の進学のための教科指導力の向上、学校としての進路指導体制の改善などを推進することが必要である。 ◆ 基礎学力の定着は、就職支援や中退防止の基盤となるものである。小規模校が多いことから学力向上サポート員の支援やフロンティアハイスクールサポートによる支援は今後も必要である。指定校の取組に留まらないよう、県立高校全体への普及を図る必要がある。 ◆ 高校の学力対策は一定の成果を上げているが、全国との比較では十分とは言えない。このことから、これまでの学力向上対策事業の検証を進め事業の見直しを行うとともに、継続して学力向上対策に関する支援を行う必要がある。